

# 足立区少年団体連合協議会ドッチビー規程

## 1 コート

正規サイズである、バレーボールコート（縦9メートル、横18メートル）を使用する。

ただし、使用する会場により、縮小することを可とする。

## 2 競技人数

競技者の総人数は、13人を基本とする。

ただし、前述のとおり、縮小することができる。

なお、公式ルールに則り、外野は1名以上とする。

審判等は、主審1、副審1、線審3、タイムキーパー1とする。

## 3 ゲームの開始、終了及び勝敗

[開始]

審判の支持により、センターラインに整列し、挨拶を行う。

キャプテンがじゃんけんにより先攻またはコートを選択する。

内野競技者（以下、内野という）と外野競技者（以下、外野という）に別れ、審判の合図で試合を開始する。また、ゲームは前半、後半で行う。

[終了]

どちらかの内野が全員アウトになった時。

競技時間が終了した時。

この場合は、審判の指示により、外野はその場に座り、内野はセンターラインに整列する。

内野数の多いチームを勝ちとする。

同点の場合は、下記により勝ちとする。

合計の得点数が多いチーム。

が同点の場合は、失点の少ないチーム。

前記で勝敗が決しない場合は、審判の判定によるじゃんけん等。

## 5 ゲームの所要時間

1 ゲームを5分とする。(前半、後半とも)

## 6 アウトについて

内野は、以下によりアウトとなり、外野に回る。ただし、外野として相手チームの内野にディスクを当てた時は、内野に復帰する。

相手が投じたディスクが、身体に触れた時

なお、当たったディスクが着地する前に、他の味方が取った場合はこの限りではない。

ディスクを持ったまま、5秒経過した時

ディスクを持った者が、ディスクを投げずに味方に渡した時。

けが人が出た時やプレーの続行が不可能な競技者が出た時は、タイムアウトとする。

## 7 ファウルについて

以下の場合にはファウルとし、ノーカウントとし、受け手チームのものとして扱う。

プレイヤーが、ラインを踏み越えてディスクを投じた時。

ディスクデッドとなった(判断した)時。この場合、ディスクは審判に戻す。

## 8 ディスクの投げ方

ディスクはフォアハンドスローで行うことを原則とする。